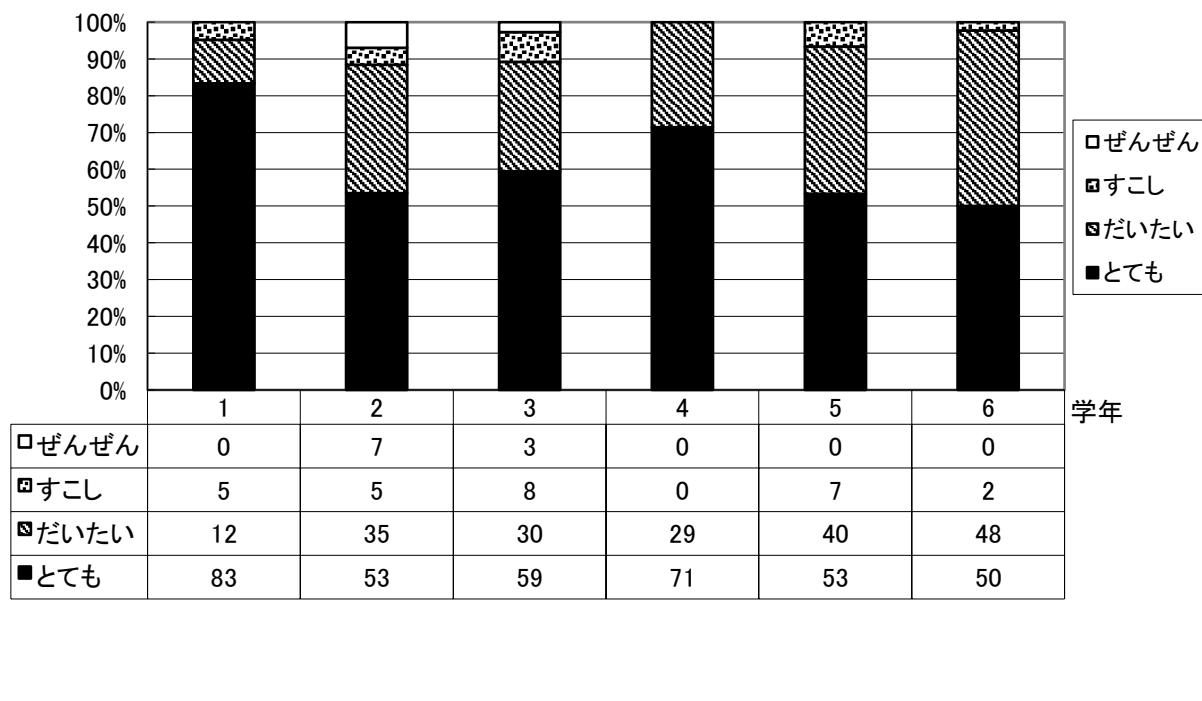


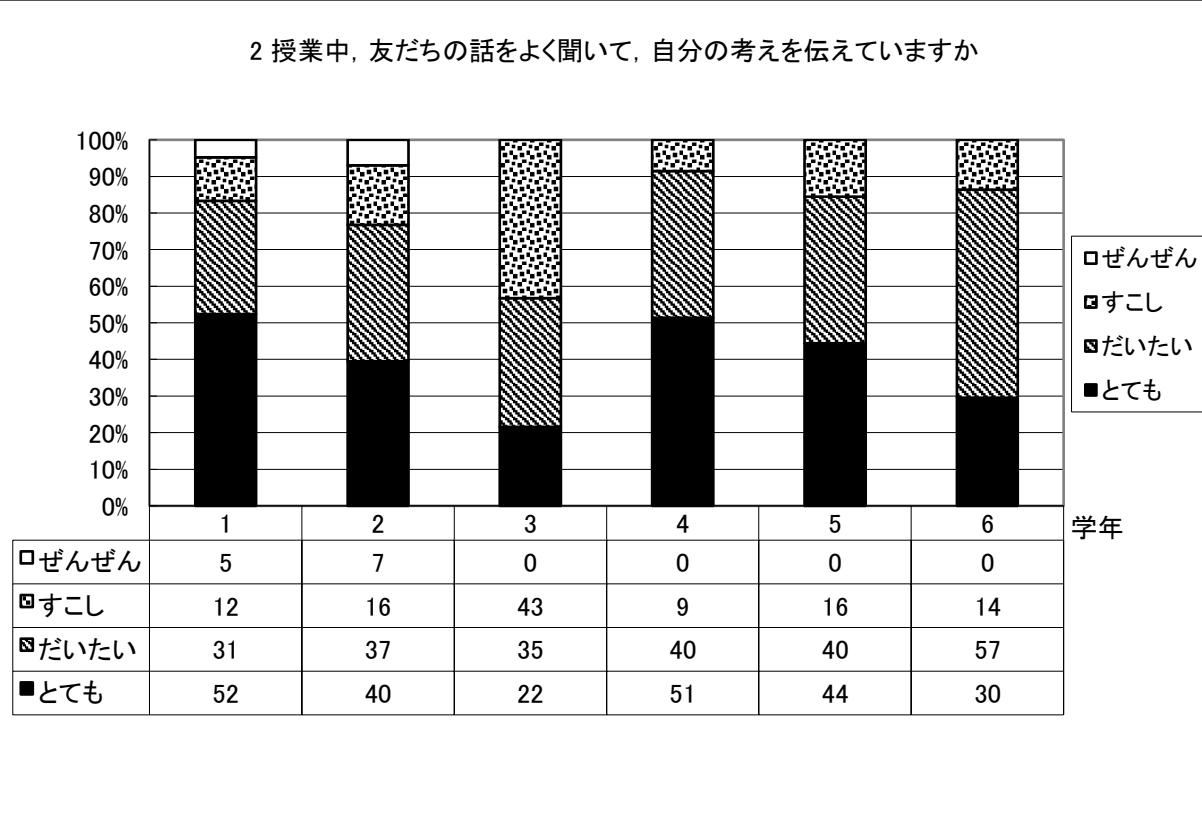
児童評価(1学期) グラフの見方

グラフの割合は図10以外はすべて学年の割合(%)になっています。軸項目の「とても」は、程度が高いこと、「だいたい」はますますの程度であること、「すこし」は程度が低いこと、「ぜんぜん」はまったくそのようでないことを表わします。また、横軸の数字は学年を表しています。表の中の数字の単位は、「%」である。各学年ともに、全体に占める1人当たりの割合が2~3%となってています。また、小数点以下は切り捨となっているので、各質問項目で合計100%となっていない学年もあります。

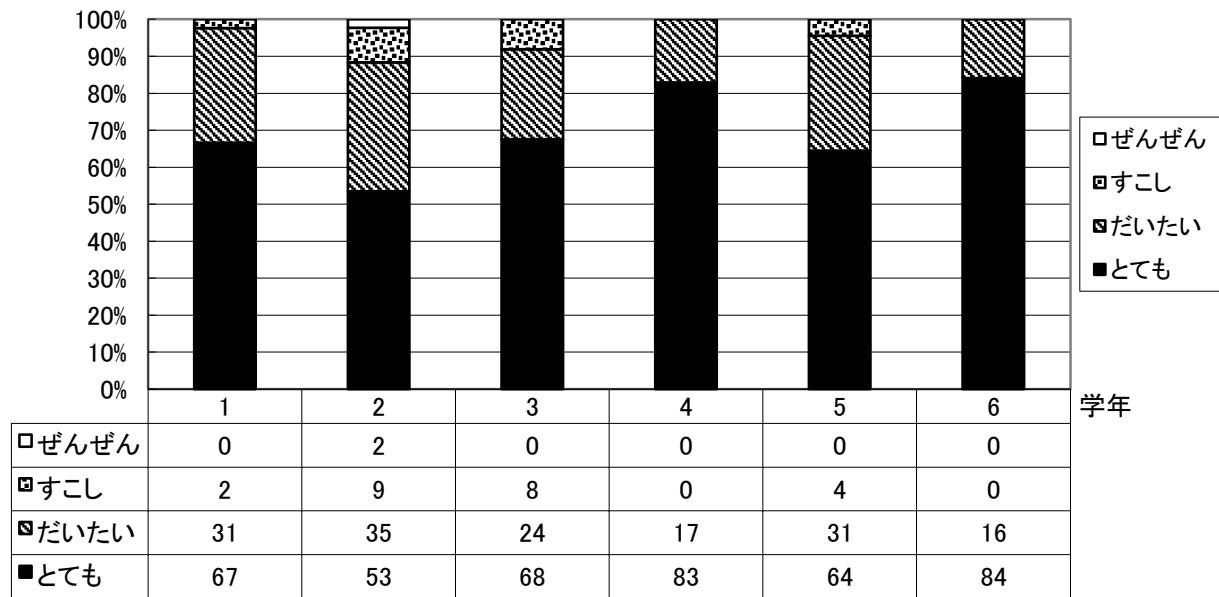
1 学校は楽しいですか



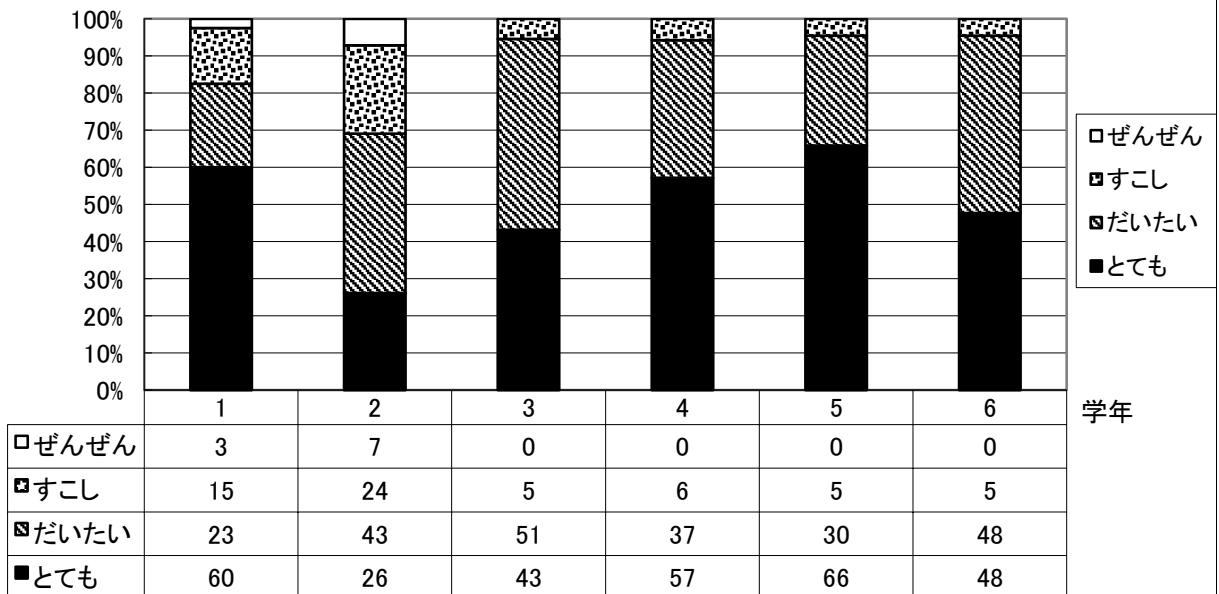
2 授業中、友だちの話をよく聞いて、自分の考えを伝えていますか



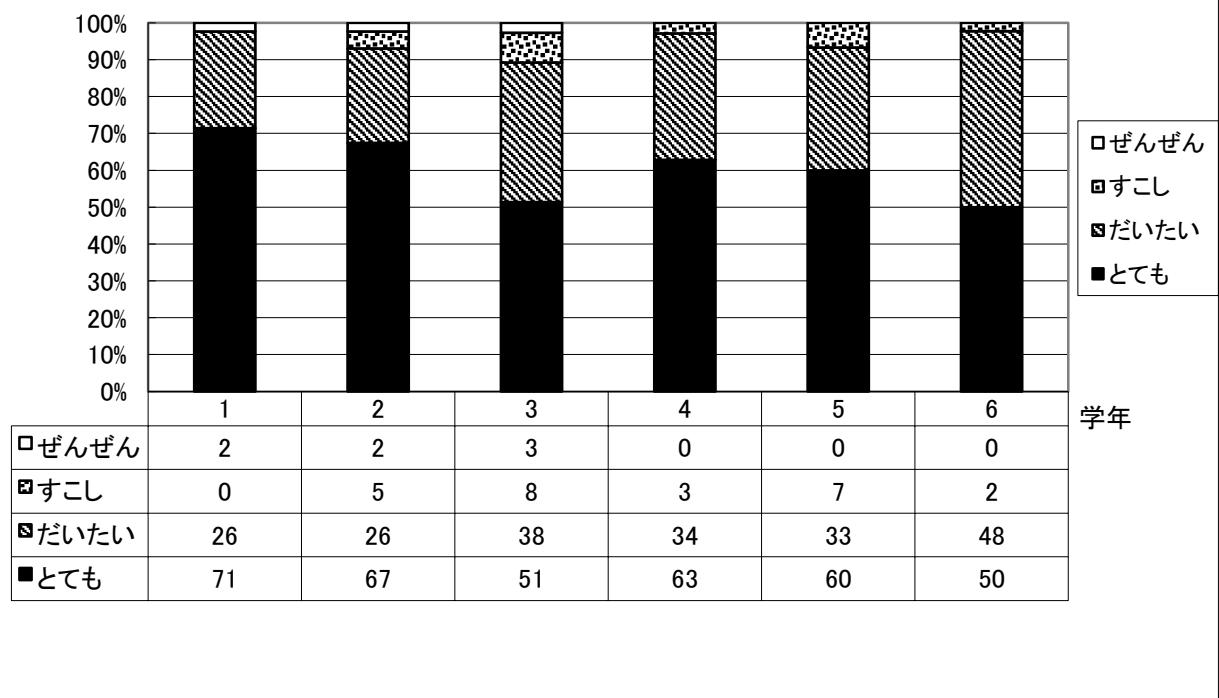
3 学校で一緒に遊んだり、おしゃべりをしたりする友だちはいますか



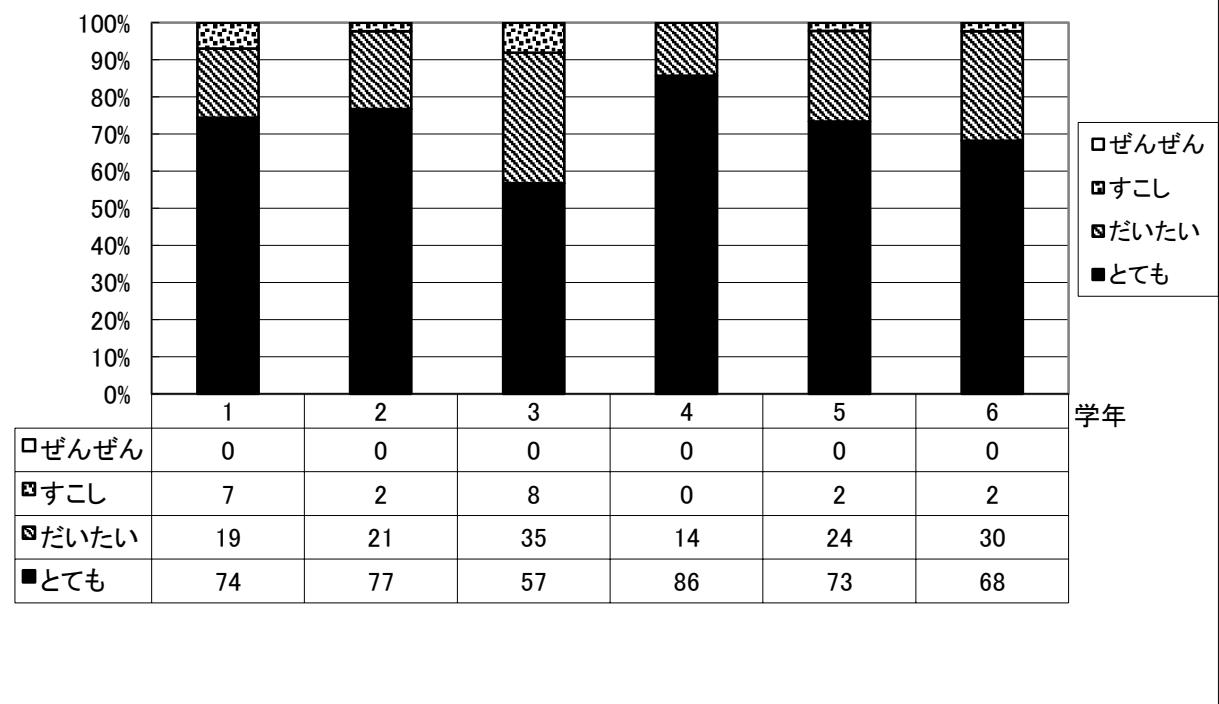
4 元気よくあいさつができますか



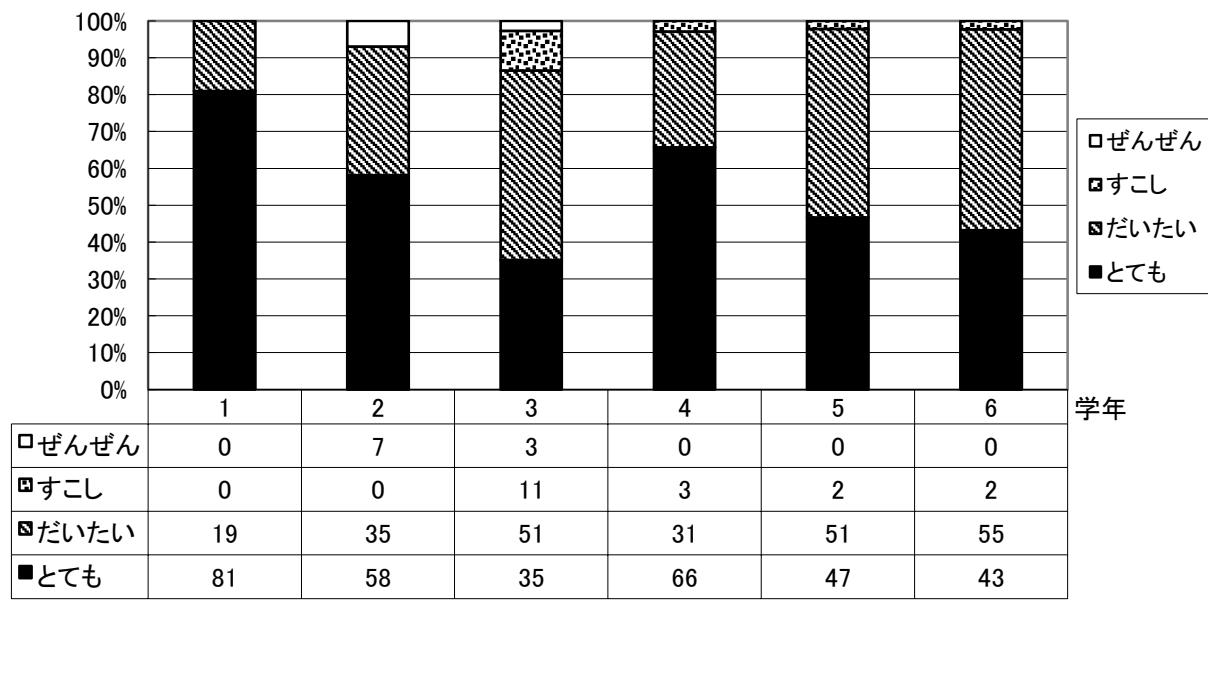
5 先生や友達の話をしっかり聞けますか



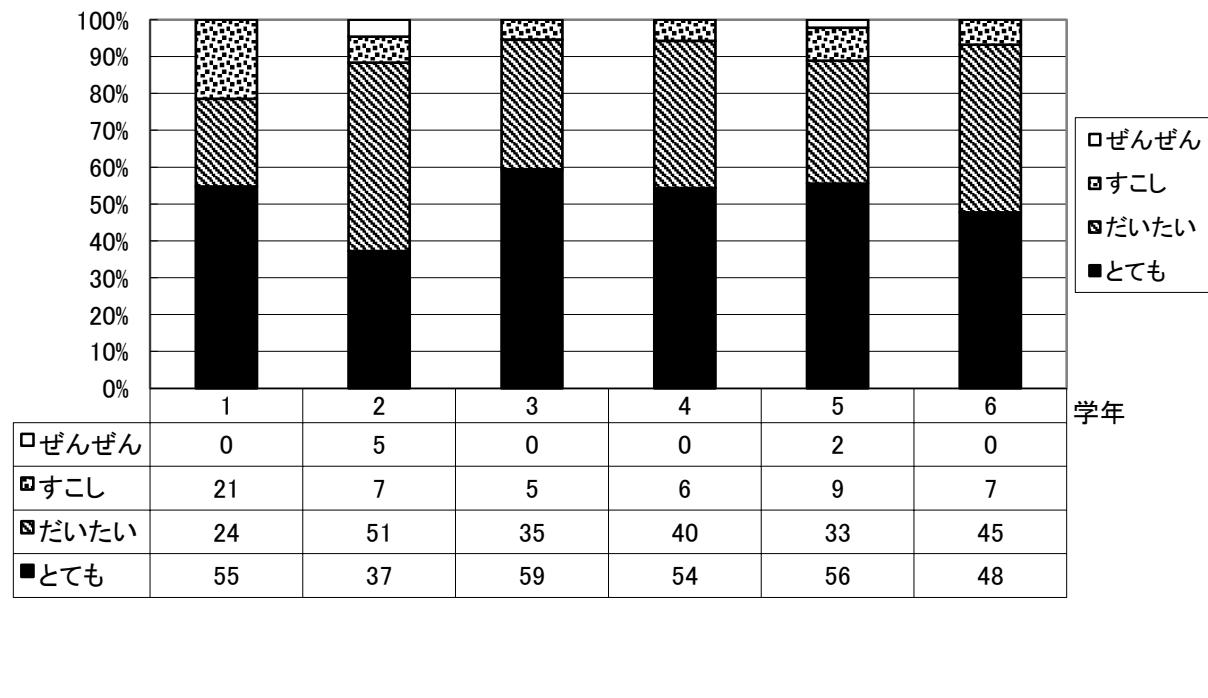
6 そうじ当番がしっかりできますか



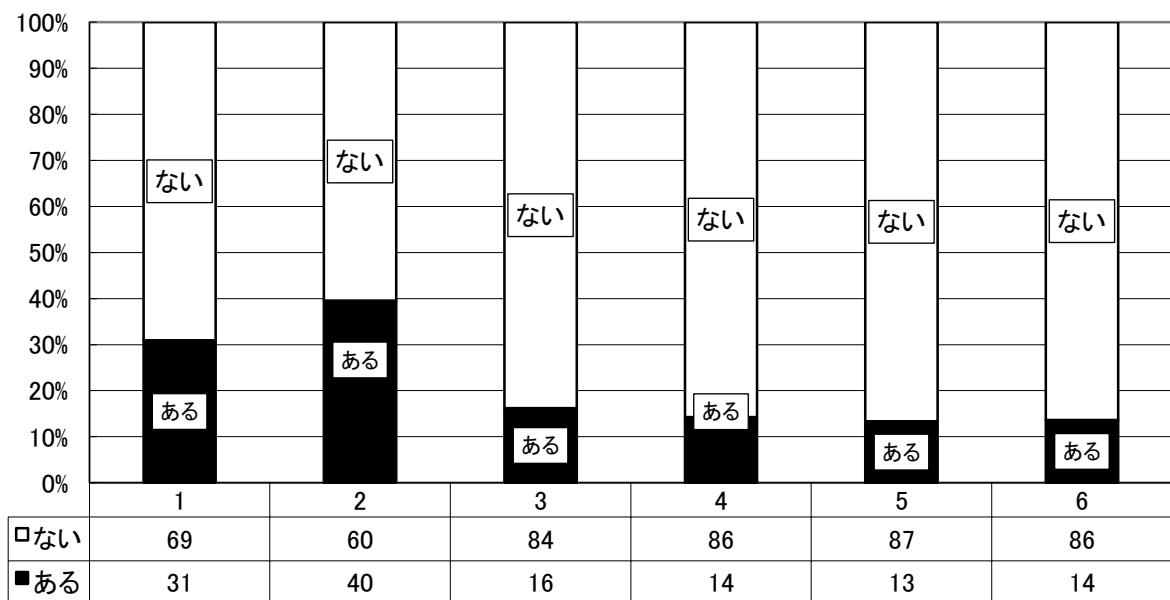
7 学校の約束や決まりを守っていますか



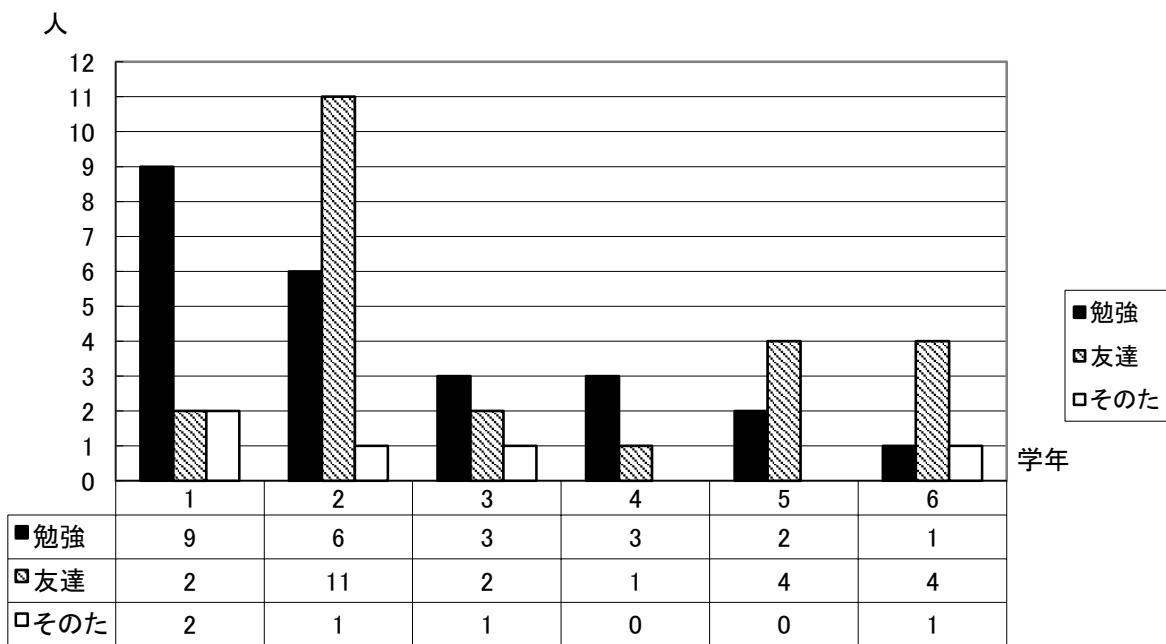
8 授業はよくわかりますか



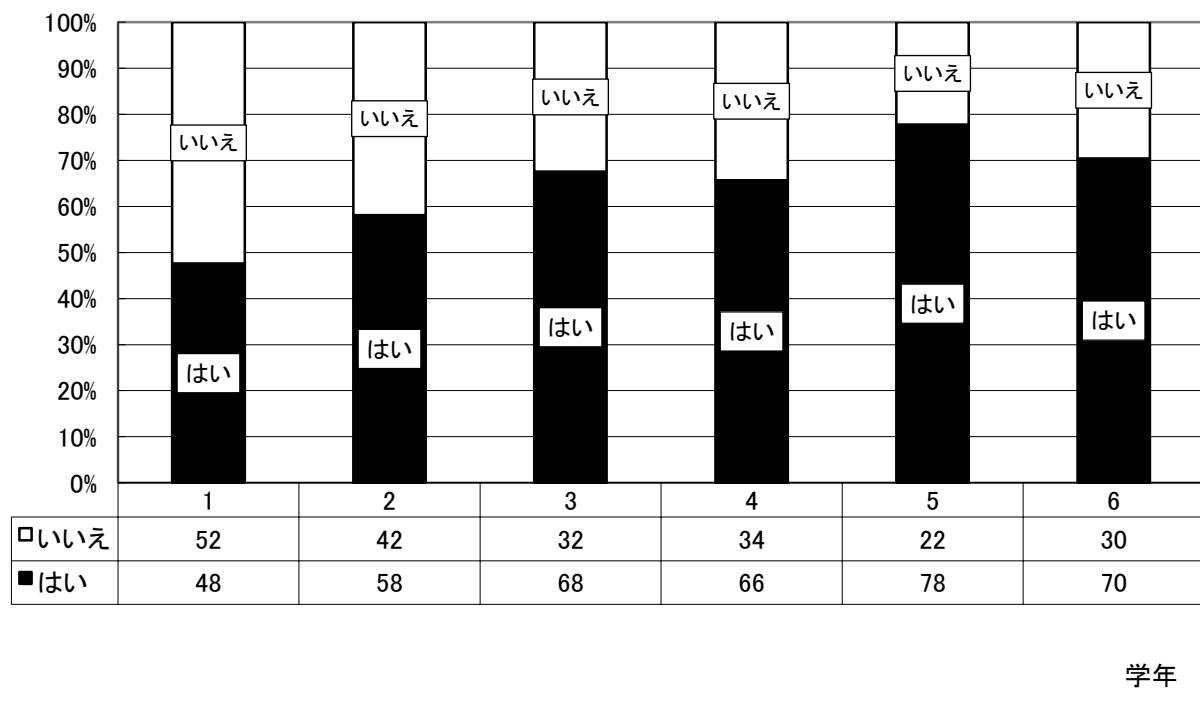
9 学校生活でこまっていることがありますか



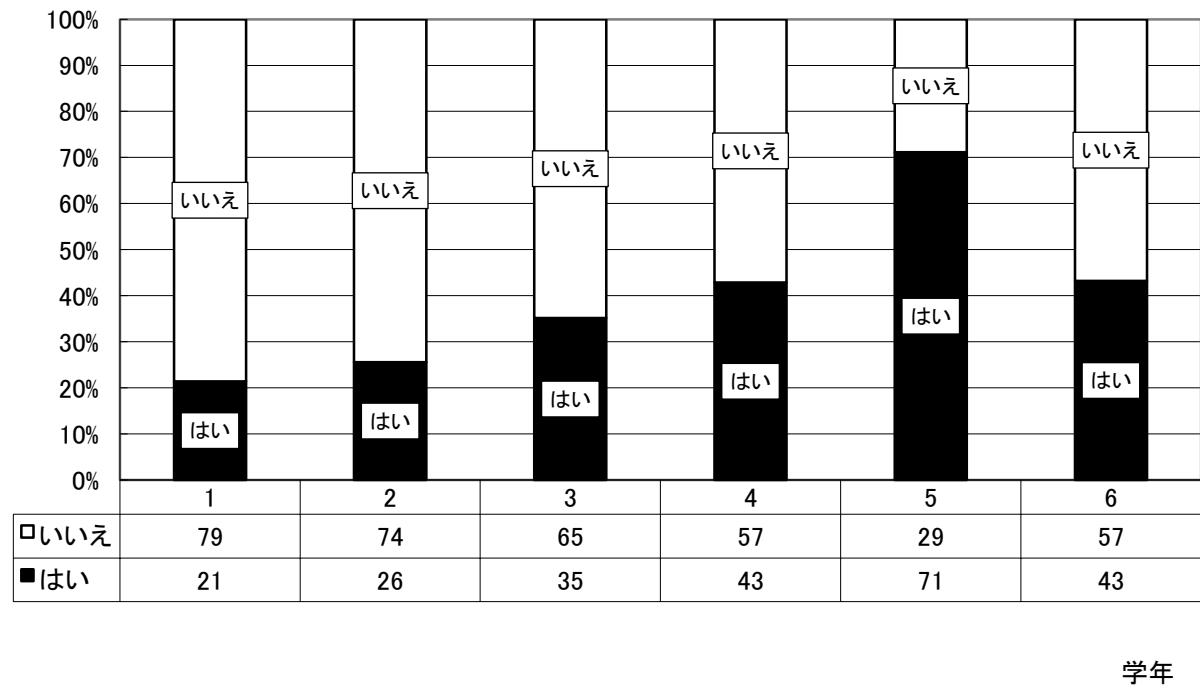
10 どんなことで困っていますか



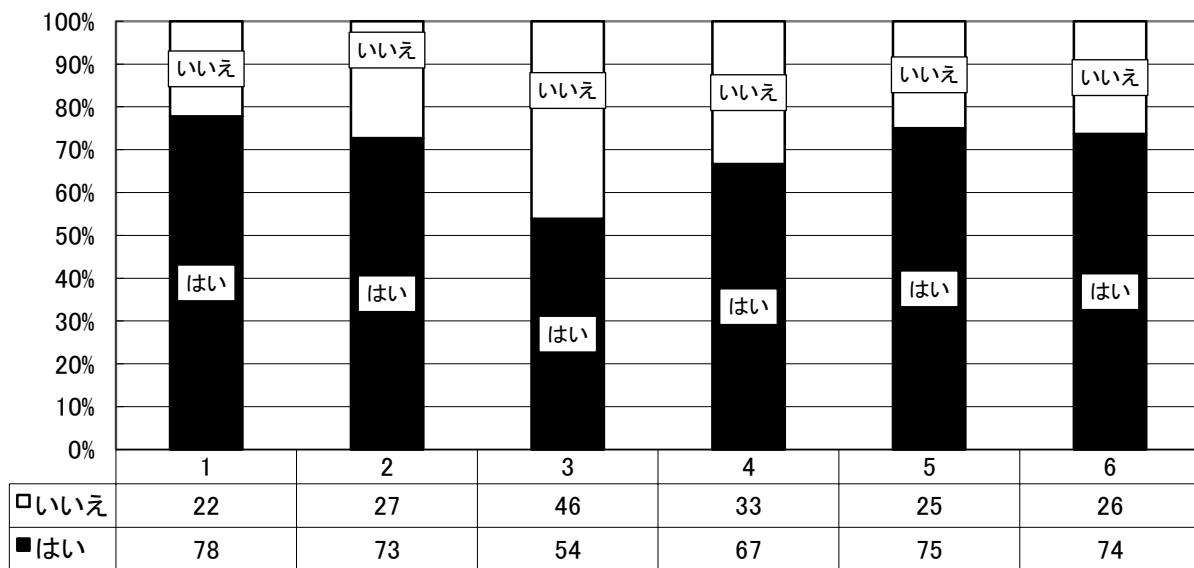
11 あなたは自分の携帯ゲーム機・携帯音楽プレーヤーを持っていますか



12 あなたは自分の携帯電話・スマートフォンを持っていますか



13 あなたのお家では、家庭内で携帯電話・スマートフォンを使う時のルールがありますか



【アンケート結果の分析】

「とても」「だいたい」を肯定的な評価とし、肯定的な評価が全校平均9割をこえているのは次の項目です。

- 「1 学校生活が楽しいですか」(90% 昨年度92%)
- 「3 学校で一緒に遊んだりおしゃべりをしたりする友だちはいますか」(95% 昨年度95%)
- 「5 先生や友達の話を最後まで聞くことができますか」(94% 昨年度94%)
- 「6 そうじ当番をしっかりやっていますか」(96% 昨年度96%)
- 「7 学校の約束や決まりを守っていますか」(95% 昨年度96%)

一方、次の項目については、肯定的な評価(全校平均)が前述の項目よりも低く、児童自身が課題があると感じている項目と捉えることができると思います。

- 「2 授業中、友だちの話をよく聞いて、自分の考えを伝えていますか」(80% 昨年度81%)
- 「4 元気よくあいさつができますか」(88% 昨年度86%)
- 「8 授業はよくわかりますか」(89% 昨年度92%)

児童に対するアンケート結果から見ると、どの項目も肯定的な評価が多く(全校平均80%以上)、多くの児童が「楽しい学校生活」を送っていると言えます。昨年度と比べると、数値の多少の落ち込みはありますが、約3ヶ月間の休校期間・2ヶ月遅れて新学期が始まったことを考えると、「飯野プリンシブル」を意識した先生方一人一人のきめ細かな指導(チームとしての指導)の成果だと考えています。(各学年で意識して取り組んできたことがあると思います。ぜひ教えてもらいたいです。)新型コロナウイルス感染症罹患防止のために、検温チェック・校内消毒など新たな業務が増え、また、学習進度の遅れを取り戻すことに重点を置いた学習指導(話し合い活動や実験などがほとんどできず)では、子どもたちの自主性や表現力を高めるような授業にはできなかったのではないか?そんな(コロナ禍)中でも、子どもたち自身が自分たちの学校生活を前向きにとらえていることには、子どもたちの中での「自己肯定感」「自己有用感」の高まりを感じています。

今後は、令和2年度飯野プリンシブルで掲げている「学校が楽しい100%」・「授業がわかる95%」を目指し、私たち教師も「協働性とOJTを大切にして、学び続けて」いきましょう。

【今後の指導について】

アンケート結果から、今後の課題点としては、次の2点を挙げます。
一つ目は、授業改善によって子どもたちの学習意欲を高めることです。

- ①子どもたちにとって興味・関心のある教材を取り上げる・教具を使う
- ②学校での学習と家庭学習を結び付ける。(家庭でその日の学習を振り返る活動を取り入れる)
- ③個人内評価を取り入れ、学習前後での自身の学びの変容を感じ取らせる。
- ④中学校での家庭学習の方法を取り入れてみる。(高学年)←小中連携
- ⑤「反転授業」的な学習を家庭学習に取り入れる。(予習的な宿題を与える)

など様々な方法があげられると思います。研究部(校内研究)の中でも、考えていいけたら…と思います。また、これまでの指導について、教師自身が振り返り改善していくことも大切だと思います。(たいしたものではありませんが、別紙を参考にしてください。)子どもたちが学ぶことの楽しさや学ぶことの意義を感じるとこができる、「2」「8」の設問に対して、肯定的に回答する子どもたちも増えていくのではないかと思います。

二つ目は、「あいさつをする」「履き物をそろえる(履く)」「右側を歩く(ろうか)」「時間を守る」「毎日の検温」「マスクの着用」「手洗い」など、規律を守ること(学習・生活環境を整えること)がよりよい学校生活を送ることにつながることを子どもたちに実感させることです。特に、「毎日の検温」や「手洗い」「マスクの着用」などは“安全な学校生活”を送ることにもつながり、コロナ禍だからこそ指導できることだと考えています。以前に紹介した※1「割れ窓理論」のように、“人がやっているから自分もやっている”=“人のせいにできる”ような考え方ではなく、自分の行動は自分で決める=自分の責任・判断で行動できる子どもたちを育てていきたいです。ただ、現在は、昨年度のように児童会も巻き込んだ全力の(全校を挙げた)取り組みができないのがつらいところです。(それでも、高学年の子どもたちの行動が“全校の手本”となり、下級生がその行動を見習って行動する“逆割れ窓理論”的な活動があつてもよいと思いますが…。)学校や家庭での自分の行動を振り返ることができるような取り組みを提案していきたいと思います。(できれば児童会と連携して)

「9」「10」の学校生活での困りごとについては、昨年度よりも、低学年での学習面での困りごとが多くなっています。長い休校生活の影響が出ているのだと思いますが、今後も子どもたちの悩みに寄り添った指導を続けていきたいと思います。児童版・教育相談会を開く機会があつてもよいのかもしれません。(朝の学習時間や休み時間などを活用して…)

携帯ゲーム機や携帯電話(スマホ)等の所有については、年々、所有率が高くなってきています。携帯ゲーム機の所有率は約70%であり、携帯電話の所有率も40%をこえています。ゲーム機や携帯電話の使用については、基本的には家庭(保護者)の指導が中心だと考えていますが、県PTAで出されたガイドラインに基づき、各家庭でルールを決めて適切に使用するよう家庭への周知を高めていきましょう。「13 あなたのお家では、家庭内で携帯電話・スマートフォンを使うときのルールがありますか。」について、「はい」と答えた割合が70%であり、昨年度より5%ほど落ち込んでいるのが気になります。(家庭教育の低下?)保護者参加型の防犯教室(ゲームや携帯電話の使い方)も考えていくことも必要かもしれません。

※1:アメリカの犯罪学者ジョージ・ケリングが考案した。「建物の窓が壊れているのを放置すると、誰も注意を払っていないという象徴になり、やがて他の窓もまもなく全て壊される」との考え方からこの名がある。(「wikipedia」より)